

Jupyter R notebook の作り方

Rstudio を利用する代わりに、このテキストでは、ブラウザで Jupyter R notebook を作成できるサービス (<https://rnotebook.io/>) を利用します。RStudio が動作する環境の人は、RStudio を起動して、R notebook を新規作成しても構いません。

<https://rnotebook.io/> を利用して新規の R notebook を作成する手順は、

- (1) R notebook の利用環境を生成する
 - (2) 作成した利用環境をブックマークする
 - (3) 新規の R notebook を作成する
 - (4) 新規の R notebook の名前を希望の名前に変更する
- という 4 つの手順で構成されます。一度、利用環境を作成してブックマークしておけば、次に R notebook を作成する手順は、上記の(3)と(4)で作成できます。

以下では、はじめて R notebook を作成する手順について解説します。

(1) R notebook の利用環境を生成する

まず利用環境を生成するために

<https://rnotebook.io/>

にアクセスしてください。アクセスしたら、利用環境を生成するためにボタン「Create a free R notebook」（図 1）をクリックしてください。

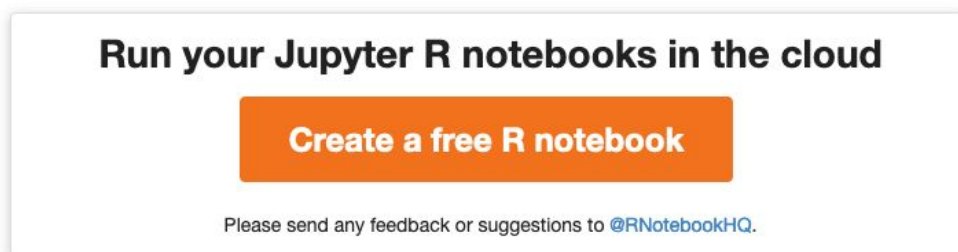


図 1

クリックすると、あなたのための R notebook の利用環境が生成され、図 2 のような Welcome ページが表示されます。この状態で、あなたの利用環境にはすでに Welcome という名前の R notebook が準備されています。ここまでで、R notebook を利用する環境は整いました。

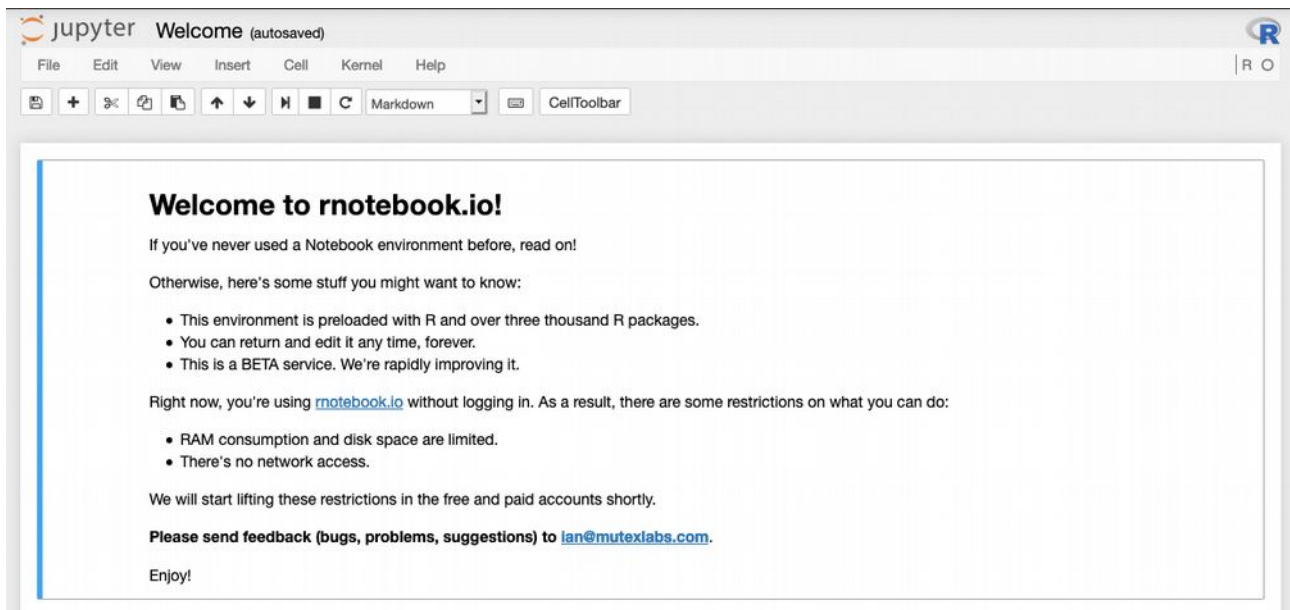


図 2

(2) 作成した利用環境をブックマークする

せっかく生成した利用環境ですので、学ぶ間は同じ利用環境で取り組むことにしましょう。そこで、生成した利用環境の URL をブックマークしておきましょう。ブックマークする場所ですが、利用環境の Home をブックマークします。次の操作により、あなたの利用環境の Home を開くことができます。Home を開いたら、ブックマークしてください。ブックマークする方法については、各自の利用環境に合わせて行なってください。しばらく使うのであれば、デスクトップにショートカットファイルとして置いておいても良いかもしれません。

R notebook 利用環境の Home を開くには、図 3 のように「File」メニューの「Open」をクリックします。

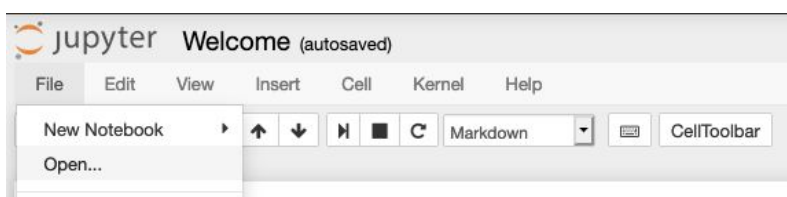


図 3

図 4 のようにあなたの利用環境の Home が開いたら、そのときの URL をブックマークしましょう。



図 4

これから新規で R notebook が作成されると、R notebook の名前のファイルがリストされます。図4には利用環境を作成した時にあった Welcome という名前の R notebook 「Welcome.jpynb」がリストされています。これをクリックすると、先ほどの図2の画面が開きます。

(3) 新規の R notebook を作成する

学習のための新規の R notebook を作成しましょう。あなたの利用環境の Home の画面右上の「New」ボタンをクリックして、Notebooks エリアにある「R」（図5）をクリックすると、新規の R notebook が作成されます。

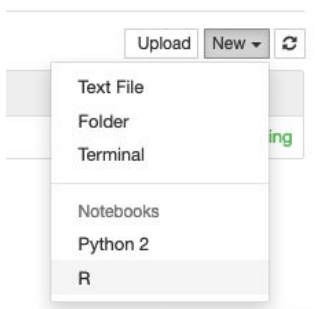


図5

作成すると、まだ名前をつけていないので、図6のように「Untitled」という名前になっています。

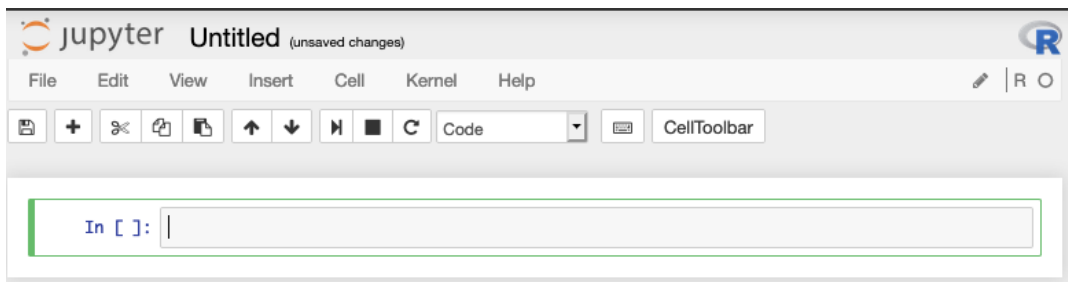


図6

(4) 新規の R notebook の名前を希望の名前に変更する

R notebook を管理するために、作成した R notebook に名前をつけましょう。例えば、機械学習のタスク1に取り組むので、ファイル名を「ML-task1」とするのであれば、初期の R notebook のファイル名「Untitled」部分をクリック（図7）して、ファイル名を「ML-task1」に変更してください。



図7

以降、新しい R notebook を作成する際は、あなたの利用環境の Home をブックマークから開き、手順 (3)と(4)で作成することができます。

演習

あなたの利用環境の Home をブラウザで開き、名前が「NewTest」の新規の R notebook を作成しなさい。

(確認方法)

あなたの利用環境の Home をブラウザで開き、「NewTest.jpynb」がリスト表示されていれば OK です。